

平成30年度第3回「知事と一緒に生き活きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：映画やドラマを通じた地域の魅力づくり
- 2 日 時：平成30年11月30日（金）
- 3 場 所：岡山国際交流センター
- 4 参加者：フィルムコミッション関係者、ロケ受入地元関係者、ロケ地情報誌編集長、映画配給会社担当者：計5名
- 5 知事挨拶
 - ・映画やドラマのロケ誘致を通じて地域を盛り上げたいと考える地域は日本中にある中で、本県では近年ロケ誘致の成果が上がってきている。
 - ・本日は関係の皆さまと、ロケ誘致をさらに進めるお話ができればと考えている。
 - ・皆さまの思いと工夫で「晴れの国 おかやま」をもっとロケで賑わう地域にしていきたい。
- 6 発言内容等
 - 【講演会】映画やドラマを通じた地域振興事例について
 - ・映画・ドラマのロケ地を紹介する情報誌「ロケーションジャパン」編集部の観点から他地域の取り組みを紹介する。
 - ・ロケを誘致した後、いかに観光につなげていくかが重要。
 - ・ロケ誘致作品にも観光誘客効果の期限がある。大河・朝ドラで1年くらい、連続ドラマのメインロケ地になったら3カ月、人気の情報番組・旅番組が来ると2週間から1カ月程度の期間は効果がある。

◎岩手県久慈市の事例（作品「あまちゃん」）

- ・経済効果 32 億円 68 万人が訪れた。
- ・久慈市では、作品のファンから地域のファンになってもらう取り組みをしている。
- ・放送から5年経ったが、情報番組・旅番組の取材は増えてきている。
- ・海女の恰好をしたおもてなしヒーリングツアーや、あまロスなげき隊（市民有志）による大漁旗での観光客見送り、ロケ隊が食べたグルメの紹介などを行っている。
- ・ロケ地巡りをしようと思っても、ロケ地ずばりの場所は見つけづらいので、たどり着けるような観光情報も盛り込んだ詳細なロケ地マップを作成している。
- ・なりきり写真を撮れるスポットを作っている。

◎岐阜県飛騨市の事例（作品「君の名は。」）

- ・ロケ地に赴いたファンがシーンと映画と同じアングルでロケ地を見ようとすると、駅の窓の柵が邪魔になるため、市役所が柵を間引いて見やすくした。
- ・人気で行列ができるロケ地には、椅子を配置するなど細かな配慮があった。

【意見交換】

- ・ロケ地情報誌「ロケーションジャパン」の編集長をしている。ロケ地巡りをする人のことを「ロケ地スト」と呼んでいる。ロケ地ストがロケ地で何をしたいのかを2,000人程度のアンケートを実施し、情報収集している。
- ・岡山県フィルムコミッション協議会（以下、県F C）とたかはしフィルム・コミッション（以下、たかはしF C）の会長をしている。たかはしF Cは、松竹の「寅さん」の誘致がきっかけで平成16年4月に設立された。
- ・当時、多くの観光客が高梁市を訪れた。行政だけでなく民間からの盛り上がりがあった。最近では、大河ドラマ「真田丸」や映画「バッテリー」、映画「ういらぶ」の支援をした。
- ・西大寺井戸端会議の事務局をしている。「楽しんで自分おこし」を合言葉に事業をしている。牛窓で映画「カンゾー先生」のロケがあった際に、スタッフの一人が偶然に五福通りを訪れたのをきっかけに2日間ロケが行われた。
- ・イベント等で五福通りを訪れた方が、SNSなどで情報を発信し、それが「三丁目の夕日」のスタッフの目に留まり、ロケ誘致につながったこともあった。
- ・五福通りは約200mで、ロケでよく使われるのは南半分の100mほどである。
- ・映画宣伝部で作品宣伝をしている。ロケ地にどのような形で恩返しができるかと考えて仕事をしている。ロケ地の住民の方々が「自分たちの映画だ!」と感じていただける作品は、ヒットする。映画はロケ地を重視している。撮影を通じて、新たな魅力を掘り起こすことにもつながるのではないかと考えている。
- ・観光連盟でF Cコーディネーターとして勤務している。これまで「君と100回目の恋」「マンハント」「先生!」「8年越しの花嫁」といった作品のロケ誘致・ロケ支援を経験した。撮影に使えるような場所を常に見ている。

【いかに誘致して、いかに有効活用するか】

- ・ロケ地は何でもないところがファンにとって特別な場所になる。ロケ地マップを作る時には、小さな表記でもいいので撮影当時のことや、このアングルで撮ると同じように撮れるという情報があると喜ばれる。
- ・ロケ地マップを作るのに、権利処理でとても苦労した。
- ・映画の制作部から聞く話では、近年の作品は原作物が多いため、原作のシーンが再現できるかという点を重視している。
- ・病院での撮影はとても難しい。都内でも病院撮影できる場所は少ない。
- ・炊き出しは制作部にとても喜ばれる。
- ・権利処理について、映画の公開期間は映画の宣伝として役者の肖像が使いやすい。DVD宣伝期間も交渉次第で肖像が使える可能性もある。配給会社とロケ地お互いにとってメリットある形にすればタイアップしやすい。
- ・映画「男はつらいよ」について、ロケ地で映画を観てからロケ地を巡るというツアーがある。

【今後どのような取り組みが必要となってくるか】

- ・「ハレウッド」というフレーズは強い。マップの作成や、ツアーを行うなど常に情報発信を続けることが大事である。今、ポスターにタレントを使っているが、例えばエキストラを使うなど「ハレウッド」らしさを推していくと良いのではないかな。
- ・久慈市の事例では、市民の方が動いていることが強みである。
- ・エキストラの方にロケ地ツアーのガイドをしてもらっても良いのではないかな。

【その他】

- ・岡山県は病院の協力体制が充実している。
- ・でーれーガールズでは、岡山市の大森市長が出演した。
- ・映画「先生！」で岡山市の京橋を7時から16時の間、完全封鎖して撮影が行われた。その際には、映画の制作部が周辺の民家約2,000軒を訪問し説明した。
- ・道路封鎖は、警察や市の協力があって実現した。
- ・映画「先生！」での道路封鎖実績から、NETFLIXドラマ「僕だけがいない街」の事故シーン撮影の誘致につながった。
- ・五福通りは、最長1週間通行止めになったことがある。
- ・高梁市吹屋地区は、撮影によっては広島になったり京都になったり、電柱がないので戦中、戦後の舞台になったりする。それは、強みだと思っている。
- ・映画「八つ墓村」の影響は大きく、ロケハンに来る監督が高梁市の広兼邸にわざわざ寄っていくことが多い。
- ・県内各地のFCの方がしっかりしていて、頼りにしており、安心して制作会社の方にも紹介することができる。

【知事まとめ】

- ・講演会でもあったとおり、ロケ誘致はそれぞれの県が知事をトップに総力戦で取り組んでいる。
- ・今後も映画・ドラマのロケを誘致し、ロケ後も皆で楽しめるような使い方をしていきたい。
- ・本日参加の皆さま方と一緒に頑張っていきたい。